SEEDS Asia ニュースレター 第70号（2019年5月・6月号）

田植えの様子（日本/丹波市）
Rice Planting（Japan）

Newsletter

ソフトバンク株式会社のアプリ「つながる基金」で、下記SEEDSのロゴをかざすと簡単にご寄付いただけます。

●Table of Contents Vol.70 (May & Jun. 2019)

・ミャンマー　：ヒンタダ地区における学校・地域防災支援事業
・バングラデシュ：災害対応ウェアハウスの効率性強化支援事業
・フィリピン　：セブ州における学校の防災管理推進支援事業
・日本　：防災・復興スタディツアー
・講師派遣
・お知らせ

- Myanmar ：Enhancing Comprehensive School Safety in Collaboration with Community in Hinthada Township
- Bangladesh ：Enhancement of the Effectiveness of DRR Emergency Warehouses
- Philippines ：Support Project on Promotion of School Disaster Risk Reduction and Management in Cebu Province
- Japan ：Tamba City Study Tour
- Delivery Lecture
- Announcement

特定非営利活動法人SEEDS Asia

〒658-0072
神戸市東灘区岡本3-11-30-302

3-11-30-302 Okamoto,
Higashi Nada ku, Kobe, Japan

Tel　：078-766-9412
Fax　：078-766-9413
Email　：rep@seedsasia.org
Web　：www.seedsasia.org
Facebook：https://www.facebook.com/SEEDS-Asia-206338119398923/

ミャンマー

ヒンタダ地区における学校・地域防災支援事業

【外務省 日本NGO連携無償資金協力事業】

教育と防災の拠点となる学校建設から地域の防災力向上まで、ハードとソフトを合わせた包括的な防災を推進しています。

●学校に付設された地域の防災拠点が完成！

平時は地域の防災拠点兼学校の講堂として、災害時には避難所になると同時に、子どもの教育機会の継続と雨季の遊び場として機能する多目的ホールが、ナベーゴン村小学校に完成しました！6月2日にミャンマー工学連盟と共に開催した引き渡し式典では、エヤワディ地域ウーラーモー大臣、社会福祉救済復興省ウーソーアウン副大臣の他、ドーラーミャットゥエ氏を始めとする国会議員や政府高官が多く参列した他、400名以上の子どもや村民が参加し、盛大な会となりました。また、スロープや深井戸掘削にご寄付いただいた個人寄付者の方々も数名ご参加頂き、子どもや村の方々が喜ぶ様子と共に名盤にてご自身のお名前を確認頂くこともできました。学校とイベントの様子はミャンマーの国営放送や新聞を通じて全国に共有され、包括的学校防災の重要性を広く伝える機会にもなりました。ここに改めて、ご寄付や技術的なご指導など、様々な形でご協力頂いた皆様に、深く感謝申し上げます。

多目的ホールの引き渡し式典の様子

【本プロジェクトは外務省日本NGO連携無償資金協力事業の他、活動にご賛同いただいた日緬の個人・企業寄付を通じて実施されています】

●設備利用メンテナンス研修

水道水の濾過機の使用方法を確認する様子

6月15日から17日にかけて、学校兼シェルターの建物や設備のメンテナンス研修を実施しました。普段していないことは緊急時にはできず、平時からの点検と保守管理が緊急時の活用には必要です。ナベーゴン村小学校兼シェルターでは、災害時の光と水を提供するために、飲料水の濾過機や、太陽光パネルなどが設置されており、自立した継続的なメンテナンスや活用が今後の課題です。今回は事業の間に配備される防災用具・備品の紛失を防止するための体制づくりと共に、備品や施設の使用方法の理解（だれでも理解できるようにする）、施設利用にあたる注意事項や要配慮者対応の役割明確化を目的として、3日間に亘って協議と研修を行いました。こうした機材については、誰にでも使用法や基準が分かるよう、掲示板を設置する予定です。雨季を前に学校や村の対応能力の向上に励んで参ります。

●スイス開発協力機構とミャンマー教育省共催ワークショップに参加

スイス開発協力機構とミャンマー教育省が共催する「学校校舎デザインの改善ワークショップ」にスピーカーとして参加し、ナベーゴン村で建設した学校兼シェルターを紹介する機会を頂きました。教育の拠点だけでなく、平時から地域の防災拠点としての機能を持つというミャンマーでは新しいコンセプトに基づくデザインの特長を紹介しました。

ワークショップで事業紹介するSEEDS Asiaスタッフ

バングラデシュ

災害対応ウェアハウスの効率性強化支援事業

【世界銀行都市強靭化プロジェクト 】

ダッカ市職員向け災害対応研修実施を通し、災害対応ウェアハウスの有効的な運用を促進します。

●北ダッカ市都市強靭化事業

これまでSEEDS Asiaがバングラデシュ現地カウンターパートとして関わってきた北ダッカ市は、2015年より世界銀行による都市強靭化事業を実施しています。都市強靭化事業は、緊急時の対応システムや市役所の災害対応能力の強化を目的としており、北ダッカ市はこれまでに、市内にある5つのゾーン、および南ダッカ市の3つのゾーンに災害対応ウェアハウスを建設し、災害対応のための各種資機材や緊急車両の調達を行ってきました。災害時にはこのウェアハウスがゾーンの災害対応拠点として使われる計画で、市は現在、ゾーンごとの災害対応チームの編成と災害対応計画の作成に取り組んでいます。ゾーン災害対応チームは、ゾーン事務所の所長を本部長とし、医療班、連絡班、情報収集班、遺体処理班、被害状況確認班、安全管理班等が設置され、様々な部署からメンバーが集められる計画です。

災害対応ウェアハウス

SEEDS Asiaは、6月よりコンサルタントとして同事業実施の支援をしています。ゾーン災害対応チームの組成に向け、ゾーン事務所の職員に対し、防災の基礎や災害対応ウェアハウスの役割と設備についての研修を実施するとともに、災害時だけではなく平常時もゾーン事務所や市民によって災害対応ウェアハウスが活用され、適切に管理されていくよう、マニュアルやリーフレットの作成をしています。今後、都市強靭化事業の対象地である北・南ダッカ市およびシレット市において、職員向けの研修を順次実施していく計画です。

●デング熱に立ち向かう！

デング熱予防を訴える運動

ダッカでは今年、デング熱が猛威を振るっています。家族福祉省の調べでは、今年の5月から6月にかけて、報告されているだけでも実に1,864人以上がデング熱に感染し、3人が亡くなりました。専門家によると、デング熱が大流行している理由には、気候変動の影響や断続的な雨など複数ありますが、最も大きなものは、一般市民の、感染症や対策についての正しい知識の欠如だといいます。デング熱を媒介するヤブ蚊は特にダッカに多く生息しているといわれ、対策が大きな課題となっています。

そんな中、ダッカでの先行事業であるコミュニティ防災力向上支援事業（JICA草の根技術協力事業）にて生まれた防災コミュニティは、デング熱に立ちむかうためそれぞれの地域で活動しています。テストゥリバザールコミュニティは、デング熱予防を訴える運動を実施し、特に家の周りや建設現場、市場などに水たまりを作らないよう呼びかけました。また、昨年大勢が同じく蚊を媒介とするチクングニヤ熱にかかったモニプリパラコミュニティでは、今年はその被害を最小限にするため、昨年同様デング熱・チクングニヤ熱と対策についてのリーフレットを配布するとともに、SEEDS Asiaが先行事業で配布したスプレーボトルを利用し、殺蚊剤の散布を実施しました。蚊の駆除は市の仕事ですが、予防には市民ひとりひとりによる努力が欠かせません。自分たちの地域は自分たちで守るとの信念のもと、活動を続けている防災コミュニティを非常にたくましく思います。

フィリピン

セブ州における学校の防災管理推進支援事業

【JICA草の根技術協力事業】

学校における災害リスク管理力の向上を目指した取り組みを実践しています。

●社会福祉開発庁第７地方事務所長への表敬訪問

5月10日に、社会福祉開発庁第7地方事務所の新事務所長であるレベッカ・ゲマラ氏に表敬訪問を行いました。SEEDS Asiaの団体概要や、今までフィリピンで行ってきた事業、現行の防災管理事業について説明しました。デマラ氏には、15日より開催した災害対応・避難計画ワークショップを含む事業全体への協力を約束していただきました。

社会福祉開発庁第7地方事務所長に事業紹介をする
SEEDS Asiaスタッフ

●災害対応・避難計画ワークショップ

災害対応計画を作成している様子

5月15日から17日にかけ、セブ州防災管理局の協力のもとセブ市内で災害対応・避難訓練ワークショップを開催し、各パイロット校で頻度の高いハザードを明らかにするとともに、それらの災害に対応するための計画策定、そして計画を振り返る場としての訓練の実践について協議しました。各パイロット地区よりパイロット校の校長、学校防災管理コーディネーター、PTA、生徒会、地方自治体防災管理局、コミュニティ、警察、消防など約100名以上が参加しました。SEEDS Asia、学校防災管理指導チーム、セブ州防災管理局がファシリテーターとなり、各校がそれぞれ異なるハザード、そして在校中・登下校中・学校外での活動中といった3つのシナリオごとに、教職員およびステークホルダーの役割や業務内容、避難計画といった災害対応計画の作成、全体発表、そして意見交換を行いました。これらの計画を基に7月より避難訓練を行い、改善点や作成した災害対応計画が機能するかどうかを確認します。

担当地区のハザードについて発表している様子

参加者は、ワークショップ中の最も重要な学びとして、「身近なハザードについて知り、何をすればいいか、自分の判断の結果について検討し、準備をすることが大切だ」と挙げるなど、災害に対する備えの重要性を理解した様子でした。また、「体験も遭遇もしたことのない状況について想像するという難しい時間だったが、とても有益だった」「想定外で最悪のシナリオの自然災害や人災について知識をつけることができたので、家族や学校、コミュニティでの初期対応でリーダーシップを発揮できる」などと発言し、今回学んだ知識をもって自身の身近な人々を守るという意気込みが伝わりました。さらに、このワークショップで学んだことをどのようにそれぞれの仕事で活かすかについて、警察官の一人は「警察として、どんな災害にも常に冷静でいること。被害者ゼロを目指し、24時間365日防災管理の任務を務めること」と話し、平常時と災害時における自身の任務を再確認したようでした。その他の参加者からは、「火災、地震、洪水などそれぞれの災害にどのように対応するか、様々な戦略を学んだ」や「子どもたちのための、より安全な環境づくりに役立つと思う」、「教員や生徒が実際に遭遇し得る状況について必要な知識やアイデアを、異なるシナリオやワークショップを通じて得ることができた」と述べたほか、「学校区だけでなく、コミュニティや家族にもこの知識を共有したい」と、地域を巻き込んだ学校防災を目指す発言も見られました。さらに、「今後、より多くの命を救えると思う」、「ワークショップで、様々な機関とチームワークを発揮する機会があった。災害があったときの対応や協力体制確立に役立つと思う。ひとつのチームとして行動できる」などと、ワークショップの効果を確認できるコメントをたくさんいただきました。

日本

防災・復興スタディツアー

【丹波市創成シティプロモーションパートナーシップ事業】

復興スタディツアーを通じ、豪雨災害からの教訓を伝え、丹波市の新たな“好流”を促進します。

●田植えイベントの実施

5月19日、丹波市市島町で食を通じた「人づくり」に取り組んでいる地縁団体「ぽんぽ好（ぽんぽこ）」さんの田植えイベントにSEEDS Asiaも参加しました。田植えは毎年行われていますが、今年はスタディツアーとも関連するイベントとして、SEEDS Asiaも広報でお手伝いをしました。

結果、神戸、大阪、堺から親子連れ等16名が参加し、とても賑やかな1日となりました。泥だらけになる田植えのほか、新鮮な野菜の収穫体験、美味しいランチもついており、都市部にお住まいの方々にとっては珍しい体験となったようです。参加した方々は「またイベントがあったら市島町に来たい」とおっしゃって下さいました。

●スタディツアー業務の引継ぎ打合せ

丹波市のシティプロモーションパートナーシップ事業では、現在SEEDS Asiaが担っているスタディツアーの調整業務を地域の方々に引継ぐことで、持続的なツアー運営の体制が確立することが目指されています。そこで、5月24日に丹波市市島町の地域住民の方々と打合せをし、既存の体験学習ポータルサイトへの登録に合意しました。今後のイベントやツアーは同サイトに掲載し、より広い対象への広報につなげ、将来的にはSEEDS Asiaが間に入らなくても訪問者と丹波市の受入先がやり取りをできる体制を目指します。

地域住民の方々との引継ぎ協議

防災キャンプ開催決定！

〈詳しくは画像をクリックしてご覧ください〉

8月24日～25日（1泊2日）に次の丹波市スタディツアー開催が決定しました！テーマは「ESD（持続可能な開発のための教育）防災キャンプ」で、丹波市の自然豊かな環境を満喫しつつ、災害が発生した時の不便な生活を体験するというものです。

野菜の収穫や山歩き、星空を眺める体験に加え、それぞれの参加者が「避難持ち出し袋」を持ち寄り、実際の災害時の避難生活に思いを馳せます。

皆さまのご参加、お待ちしております！お問合せは、tambacitystudytour@gmail.comまでご連絡下さい。

講師派遣

SEEDS Asiaでは、全国の学校や地方自治体、私企業などの民間組織・団体の講演会やイベント等、幅広い方々を対象に、講師を派遣しています。2019年5月～6月には以下の講師派遣を実施しました。

●iTSCOM（イッツコム）FMサルース「サロン・ド・防災」に出演

東急電鉄グループに属する横浜市青葉区のコミュニティラジオiTSCOM （イッツコム）FMサルース「サロン・ド・防災」の防災インタビューに職員の大津山光子が出演しました。番組は5月15日に収録され、6月の毎週日曜日9:40から15分間、5週連続で放送されました。この場をお借りし、改めてご招待頂いた東急電鉄の寿乃田正人様他関係者の皆様、主に横浜市を中心とするリスナーの方々に感謝申し上げます。

収録中の様子

●ASEAN若手リーダー育成　イアッツフォーラムでの講義

参加メンバーとの集合写真

5月28日、国際交通安全学会(IATSS Forum: 本部三重県鈴鹿市)からの招待で、ASEANメンバー国とインドからの政府関係者/起業家/医師/教育者などで構成された若手リーダーら約20名に対し、講義の機会を頂きました。一行は、持続可能な開発と防災について学ぶため神戸を訪問しており、「NGOによる地域密着型の被災地支援 ―第三者として復興に関わること―」をタイトルとして職員の大津山光子が講義を行いました。講義では、阪神・淡路大震災から学んだ自助と共助の重要性、より良い復興には市民参加が欠かせないこと、そして参加メンバーが各自でこれから活動を展開していくための参考として具体的な手法や課題、その対処方法などを共有しました。同研修は毎年2回実施されており、今回で5度目になります。アジアの災害被害が増加する中、次世代が持続可能な開発に向けてそれぞれの分野で災害に配慮し備えていって欲しいと強く願うと共に、IATSS Forumの皆様に改めて感謝申し上げます。

●JICA研修での講義

6月17日、国際協力機構（JICA）が実施している「チリ災害リスクの削減のための内務公安省国家緊急対策室(ONEMI)組織強化プロジェクト」の一環として、同室職員ら約10名が訪日し、JICA関西にて職員の大津山光子からSEEDS Asiaの取り組みを紹介する機会を頂きました。この本邦研修は事業を担当しているOYOインターナショナル株式会社様が企画・運営しており、講義では災害情報管理の事例を学ぶことが目的となっていました。そこで、SEEDS Asiaからは、ミャンマーの移動式防災教室や防災活動センターの啓発プログラムについて紹介し、現地の文化や社会的背景を配慮・考慮しながら、いかに情報から防災行動を促進していくための工夫を行っているか、というお話をしました。参加者からは「私たちの国にも文化財保護の目的で巡回しているトラックがあるから、ぜひ移動式防災教室をやってみたい！」という意欲的な声が寄せられ、早速スペイン語の話せる職員に移動式防災教室の教材を説明してもらい、ビデオ収録して共有しました。数年後にチリでも移動式防災教室が完成していたら、是非見に行きたいと思います！

講義の様子

お知らせ

●2019年度　理事会・総会の開催

5月23日、2019年度 SEEDS Asiaの理事会・総会が開催されました。これからも持続的な開発目標(SDGs)、仙台防災枠組(SFDRR)の達成に向けて、専門性を活かした質の高い防災事業の実施に誠心誠意尽力して参ります。

さまざまな形でご支援ご協力頂いている皆さまに改めて感謝申し上げますと共に、引き続きご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます！

理事メンバー

Myanmar

Enhancing Comprehensive School Safety in Collaboration with Community in Hinthada Township

【Ministry of Foreign Affairs of Japan (MOFA)】

●Multi-purpose Hall as a Base of DRR for the Community

Handing-over ceremony of multi-purpose hall

On the completion of school-cum-shelter with multi-purpose hall, SEEDS Asia and the Federation of Myanmar Engineering Societies (Fed. MES) jointly organised a grand opening ceremony to handover the buildings and equipment to school administration and disaster management committee of Nabekone Village on 2nd June, 2019. H.E. U Hla Moe Aung, Chief Minister for Ayeyarwady region and H.E. U Soe Aung, Deputy Minister of Ministry of Social Welfare and Relief and Resettlement, Dr. Hla Myat Twe, Ayeyarwady Regional Minister for Social Affairs, Parliament members, concerned government officials from Ministry of Education and Constructions at Regional, District and Township level, and around 400 community members and children participated the event. Individual donors for ramp construction and deep tube-well from both Myanmar and Japan also attended and could see their name on the list of contributors too. The event was broadcasted through Myanmar Radio and Television (MRTV) throughout the country, that conveyed the importance of comprehensive school safety approach. We heartily appreciate your kind cooperation and contribution in many ways for making this event possible!

[The project is financially supported by MOFA, and the people of Japan as well as Myanmar]

●Training for Maintenance of School-com-shelter

Learning on how to use the filtration equipment for drinking water

A series of trainings for maintenance of facilities and equipment of the school-cum-shelter was held from 16th to 17th June. Whatever a person does not usually do cannot be done in emergencies, therefore day-by-day regular inspection and maintenance are necessary for appropriate emergency responses. The challenges are to maintain and utilise the filtration equipment for drinking water and solar panels installed to provide lights and water at the time of disasters in school-cum-shelter. The discussions and trainings for three days were conducted to; promote understanding of how to use equipment and facilities, establish the management structure to prevent and mitigate the loss of and damage to DRR equipment, and learn how to assist people who need help. Those rules and regulations will be on the bulletin board to acknowledge everyone. SEEDS Asia will put an effort to build more capacity of the school and the village before the rainy season comes.

●Workshop Organized by Swiss Agency for Development and Ministry of Education in Myanmar

SEEDS Asia with Fed. MES participated in the "Workshop on Improved School Design" which was organized by Swiss Agency for Development and Cooperation with Ministry of Education in Myanmar to exchange and share good practices and challenges with other stakeholders for improving school design in Myanmar. Thank you for having us to share our concept and features of Nabekone school-cum-shelter.

SEEDS Asia staff introducing the project

Bangladesh

Enhancement of the Effectiveness of DRR Emergency Warehouses
【World Bank Urban Resilience Project】

●Urban Resilience Project – Dhaka North City Corporation

Dhaka North City Corporation (DNCC) is implementing the World Bank funded Urban Resilience Project since 2015. The project aims to enhance emergency response system and develop disaster response capacity of cities. Under the project, DNCC has built emergency warehouses in five zones in DNCC and 3 zones in Dhaka South City Corporation (DSCC) and procured various equipment and heavy vehicles. At a time of disaster, those warehouses will act as a response headquarters in the respective zones. DNCC is currently working on preparing zone disaster response plans and forming zone disaster management teams. A Zone disaster management team is going to be led by the Zone executive officer and consist of various cells such as medical, coordination, communication and information, dead body management, damage assessment, and security, to which the members will be appointed from different departments in zone offices.

Zone emergency warehouse

SEEDS Asia is supporting DNCC to implement the project as a consultant. We provide zone officials and employees with a series of trainings on the basic of disaster risk reduction as well as roles of and facilities in the emergency warehouses. Also, we develop manuals and leaflets so that the warehouse can be utilized by zone offices and citizens not only in disaster times but also in peace time. The trainings will start in July and will be organized in DNCC, DSCC, and Sylhet City Corporation (SCC) in the next five months.

●United against Dengue Fever!

Rally raising awareness on prevention of dengue fever

The number of dengue cases is observed record high this year so far in Dhaka and it is still on the rise. According to Ministry of Family Welfare, 1,864 people were infected in May and June and three patients died. The number is three times higher as compared to last year. Experts say that there are several reasons for the dengue outbreak in the capital such as effects of climate change and intermitted rain, however, the biggest reason is lack of knowledge on the disease and prevention measures among citizens. Aedes mosquitoes that carry dengue are found more in the capital and its eradication is a big and urgent challenge the city faces.

Mosquito eradication drive by Monipuripara community

In such a critical situation, DRR communities that were born in our previous project in Dhaka (JICA Grassroots Project) is taking initiatives to fight dengue fever. To introduce some, Tejturibazar community conducted a rally to raise awareness on prevention especially not to keep stagnant water around home, construction sites, and markets. Also, having many people been affected last year, Monipuripara community sprayed mosquito medicine in their area, trying to minimize the risk and the number of infection cases this year. Elimination of the breeding ground and wiping out mosquito are city corporation's responsibility, however, prevention requires everybody's effort. It is so inspiring to see those communities working together to protect their own community.

Philippines

Support Project on Promotion of School Disaster Risk Reduction and Management in Cebu Province

【JICA Grassroots Technical Cooperation Project】

●Courtesy Call to Director of DSWD Field Office 7

On 10th May, SEEDS Asia paid a courtesy call to Director Rebecca P. Geamala, the new director of Department of Social Welfare and Development Field Office 7. SEEDS Asia explained an overview of the organization, projects accomplished in the Philippines, and the current DRRM Project. She promised her cooperation and commitment to the Disaster Response and Evacuation Planning cum Workshop which started from 15th May as well as to the entire project.

SEEDS Asia's staff introducing project

●Disaster Response and Evacuation Planning cum Workshop

Discussing Disaster Response and Evacuation Plan

From 15th to 17th May, SEEDS Asia has organized a Disaster Response and Evacuation Planning cum Workshop in Cebu City with a cooperation of the Disaster Risk Reduction and Management Office of Cebu Province. From each pilot division, pilot school head, School Disaster Risk Reduction and Management (DRRM) coordinator, Parent-Teacher Association, Supreme Pupil Government, Local Government Unit DRRM officer, community, Philippine National Police (PNP), Bureau of Fire Protection, totaling more than 100 people participated. SEEDS Asia, School DRRM Instructing Team and Cebu Provincial DRRM Office facilitated the workshop. During the three-day workshop, each school worked on one hazard, and made disaster response plans including roles and responsibilities of teachers and other stakeholders, and evacuation plan, for three scenarios of "while inside school premises", "while in transit to/from school", and "during off-campus activities". Each pilot area produced outputs, presented them and received comments from the facilitators. Schools will test the plans with simulation exercises which will be implemented starting from July.

Introducing hazard of allocated area

Participants commented as the most significant learning from the program, "To be ready with the disaster by knowing the hazards around you and by knowing what to do and knowing the possible outcome of decisions", "I have used my imagination to put myself in a situation which I have not experienced and encountered, but it was beneficial", "I got familiarity and was able to equip myself against the unexpected natural and human induced worst scenarios and through this I can be a first responder of my community, school and to my family". As for questions about what participants have learned and how it will help them with their work, SEEDS Asia received many positive comments to prove the workshop results such as "As a police officer, I have learned that on any types of disasters, we need to always have presence of mind. Other than that we the PNP will render our services 24/7 for successful disaster management that aims 0% casualties", "I learned different strategies on how to manage the occurrence of disasters such as fire, earthquake, flood, etc.", "It will help me in my work to make safer environment for the children", "Ample knowledge/ideas were shaped using the different scenarios and workshops which cope with the needs and interest of the people involved on this training", "Being a part of a DRR team we effectively apply the knowledge and skills not only in our district, but in the community and also to our family", "For sure I can save more lives after this training", "This seminar gave us the opportunity to build teamwork within the different agencies thus, it will improve our coordination and cooperation if a disaster occurs. It will make us one during operation."

Japan

Tamba City Study Tour
【Tamba City Revitalizing City Promotion Partnership Project】

●Rice-planting Event

On 19th May, a rice-planting event was organized by a local group “PONPOKO” in Ichijima-cho, Tamba, in which SEEDS Asia also participated. This rice-planting event is a regular one held every year, but there was a little change this year: SEEDS Asia assisted in its promotion to a wider audience, as part of its study tour initiatives.

Family participants of 16 in total from big cities such as Kobe, Osaka and Sakai joined and made it a lively day. Aside from the rice-planting activity where participants were covered with mud, harvesting fresh vegetables and tasty lunch also followed. This was surely a rare experience for the participants residing in big cities, and they mentioned they would come back to Ichijima-cho if there will be another event like this.

●Turning Over Study Tour Operations

The goal of the Tamba City Promotion Partnership Project is to turn over the coordination work from SEEDS Asia to the local residents in Tamba, to make study tour operations more sustainable. On 24th May, a meeting was held with the residents to discuss registration of the local groups to a portal site that features experiential learning events. Future events and tours will be posted on the website and be known to a wider range of people, thus there will be no need for SEEDS Asia to cut in to coordinate between the visitors and the hosts.

Meeting with residents to turn over the operation

Upcoming Study Tours: DRR Camp

[Please click to learn more. The flyer is in Japanese.]

Next study tour in Tamba will be on 24th to 25th August. The theme is “ESD (Education for Sustainable Development)-DRR Camp” which provides an opportunity to enjoy the beautiful nature of Tamba, at the same time to experience an inconvenient lifestyle of when a disaster occurs.

Activities include harvesting vegetables, a walk in the woods, bringing/testing emergency go-bags and imagining life at an evacuation shelter.

Looking forward to seeing you all in Tamba!

Inquiries are most welcome. Please kindly email at tambacitystudytour@gmail.com.

Delivery Lecture

SEEDS Asia delivers lectures and organizes events for schools, local governments, private sectors and organizations in your area to meet various requests. Please read below to learn more about delivered lectures for May and June.

●SEEDS Asia Appears on the Radio Programme "Salon de Bosai" on iTSCOM FM Salus

Ms. Otsuyama Mitsuko, a member of SEEDS Asia was invited to a radio programme "Salon de Bosai" on iTSCOM FM Salus – community radio in City of Yokohama, a member of the Tokyu Group, as a guest. Recording took place on 15th May and broadcasting in City of Yokohama at 9:40 for 15 minutes every Sundays in June. SEEDS Asia would like to extend our gratitude to Mr. Sunoda Masato, the Tokyu Group and all who provided us this opportunity to share our initiatives, and the listeners who enjoyed the programme.

Recording at iTSCOM FM Salus

●Lecture for Youth from ASEAN Countries and India at IATSS Forum

Group photo with participants

SEEDS Asia is honoured to be a lecturer for about 20 youth leaders in governments, entrepreneurship, medical and education sectors from ASEAN countries and India. This training session was organized by IATSS (International Association of Traffic and Safety Sciences, headquartered in Suzuka, Mie Pref.), and its participants are all high-spirited, strictly screened and selected members representing each country. They were in Kobe to learn about sustainable development and disaster risk reduction, in which Ms. Otsuyama Mitsuko of SEEDS Asia lectured about "Locally rooted support for disaster-affected communities - what it is to engage in disaster recovery as a third party -". The session was about the importance of self-help and mutual help as a lesson learned from the Great Hanshin-Awaji Earthquake, significance of civil participation in "Build Back Better", and what the participating members could refer to in their own initiatives, such as sample approaches, challenges and how to overcome those challenges. The said training programme is held twice every year, and this was a fifth programme. We strongly hope that this young generation will surely pay attention to and prepare themselves in respective localities for possible disasters in the world where disaster frequency and impact are dramatically increasing.

●JICA Training Programme for Chile

On 17th June, SEEDS Asia had an opportunity to share our expertise at JICA Kansai as a part of the project to strengthen the organizational structure of National Office of Emergency of the Interior Ministry (ONEMI) for disaster risk reduction (DRR) in Chile, implemented by Japan International Cooperation Agency (JICA). Ms. Otsuyama Mitsuko, SEEDS Asia, delivered a lecture with the title of “Awareness into Action” to approximately 10 officials from ONEMI, coordinated by OYO International Corporation which is taking charge of the project. SEEDS Asia introduced awareness programmes through Mobile Knowledge Resource Centre (MKRC) and DRR Activity Centres in Myanmar as examples of how to promote actions effectively toward DRR utilizing scientific data, and considering local culture and social background. Participants were highly motivated and told, “I would like to develop MKRC in my country because we already possess a routine truck for preservation of cultural heritages in remote areas.” As soon as we got to know their keen interests, we recorded an explanatory video on miniature models of MKRC in Spanish by one of SEEDS Asia staff, then we shared with them. SEEDS Asia looks forward to seeing MKRC in Chile someday in the future. We appreciate OYO International for providing the opportunity to share our experiences to the people of Chile!

At the lecture

Announcement

●Board Meeting and General Assembly for Fiscal Year 2019

On 23rd May, the board meeting and general assembly were held for the fiscal year 2019. SEEDS Asia shall continue to strive toward achieving Sustainable Development Goals (SDGs) and Sendai Framework for DRR (SFDRR) through implementing quality DRR projects with expertise.

We would like to take this opportunity to express our sincerest gratitude to those who have cooperated, are cooperating and will cooperate with us in many ways, and would humbly like to ask for your guidance and further support!

Board members